

令和 6 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 修猷館 高等学校

47

<p><b>スクール・ミッション</b> (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>世のため人のために力を尽くし、未来を創り出す、真のグローバルリーダーを育成する学校                  全人教育を中心に据えた高度で先進的な教育活動を通じて、次代の福岡県、日本、国際社会をけん引する人材を育成します。</p>		
<p><b>スクール・ポリシー</b> (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<p>【修猷を誇るな、修猷が誇る人となれ】【自浄作用】                  ・後世に文化を継承していく使命と責任の自覚                  ・知性と感性が調和した人間力豊かな実践的行動力                  ・世界の現実を直視した高い志と国際的素養                  ・内面的自覚を促し、礼節と倫理観、正義感をもった主体性                  ・10年後、20年後の自己実現</p>	
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<p>【知性の刺激、失敗を恐れない学び】【語りの文化】                  ・高い学力を豊かな知性に高める上質な授業                  ・「文系・理系」「英数クラス・医進クラス」設置                  ・「Sure You Can講座」「課題研究」の実施                  ・外部人材活用:卒業生キャリアセミナー、出前授業、生徒海外派遣、東京研修等                  ・「失敗から学ぶ」:生徒主体の運営による学校行事及び生徒会における自治的活動</p>	
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<p>【根拠なき自信】【挑戦】                  ・本校の館風と文化に対し興味を抱く人                  ・人格の完成を目指し、自らを鍛え文武両道を極めようとする逞しい人                  ・人と人とのかわり方で学ぶことを楽しめる人                  ・自ら考え判断し、主体的に行動し、自己の行動に責任を持つ誠実な人                  ・自他を尊重し、人の痛みのわかる感受性豊かな人</p>	
<p>学校運営計画(4月)</p>			
<p>学校運営方針</p>			<p>評価 (総合)</p>
<p>昨年度の成果と課題                  昨年度は新型コロナウイルス感染症も5類に移行し、従来の全人教育を中心に据えた教育活動が実施できるようになった。                  しかし、この感染症が残したものは負の遺産ばかりではない。教育の情報化の進展は目覚ましく、情報環境の整備も急激に進んだ結果、教育活動の様々な場面でICTを活用した授業実践が展開された。                  また、様々な制約を受ける中で、何ができて、何ができないのかを主体的に判断し、どうすれば実現できるかを協働的に思考・判断し、実行に移す生徒の育成につながった。これはまさしく本校が目指すスクール・ミッションそのものであり、今後のさらなる高みを目指した教育活動につなげていかなければならない。</p>	<p>年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>A</p>
	<p>「全人教育」を中心に据えた教育活動の実践</p>	<p>後世に文化を継承していく使命と責任を自覚し、知性と感性が調和した人間力豊かで実践的行動力を持つ生徒を育成する。                  内面的自覚を促し、節度ある生活の中で礼儀と倫理観を育てるとともに、正義感を持って主体的に行動し、自らの責任を果たす生徒を育成する。                  日本の公教育の強みを生かした教育活動を推進し、福岡県・日本を代表する高等学校としての在り方を生徒、教職員ともに追究する。</p>	
	<p>次代の国際社会や日本を担う人材、グローバル・リーダーの育成</p>	<p>社会的な視座に立つ教育活動を展開することにより、世界の現実を直視し、自己の使命を果たそうとする高い志と国際的素養を持った生徒を育成する。                  生徒の可能性を伸ばし、主体的に進路を選択できる能力・態度を育てること、10年後・20年後の自己実現に結び付けられるよう支援する。                  地域の小学校、学習塾等と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させ、地域のニーズを踏まえた新たな教育実践を創造する。</p>	
	<p>教育における先進性と地域における教育の役割を見据えた改革の推進</p>	<p>知識と技能の習得、思考力、判断力、表現力の深化、学びに向かう力と人間性の伸長を促すとともに、求められる資質・能力を社会と共有し連携する「社会に開かれた教育課程」を実践する。                  地域の小学校、学習塾等と連携し、小学校及び小学生の保護者向けの広報活動を充実させ、地域のニーズを踏まえた新たな教育実践を創造する。</p>	

様式3

自己評価				学校関係者評価			
評価項目	具体的目標	具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等	評価(3月)	結果の考察と次年度の課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
教務部教務課	学力の3要素の習得及び伸長のための授業・評価法の工夫・改善	質の高い個性的な授業を展開し、生徒の学びに向かう力を高める。 各学年と連携し、生徒に応じた個別最適な学びの支援を強化する。 各分掌や委員会と連携し、ICTを活用した新たな学びを充実させる。	学習の方法や授業後の質問など、先生がよく対応してくれる。	A A A	A	A	ICTの活用など、新しい学びの形について生徒に合ったものを充実させてほしい。デジタルとアナログ、どちらも手段であり、目的を見失うことなく取り組んでいると感じた。
	教育課程・学習評価・時制の適切な運用・検証・改善	真の学び、進路実現を意図した教育課程・学習評価の充実を図る。 本校教務の現状や課題を整理し、よりよい改善策を提案する。 総授業時間数と時間割を調整し、教員及び生徒の負担を軽減する。	修館館にしかできない真の学びが充実している。	A B A			
教務部庶務課	儀式運営におけるPTA・同窓会との連携	本校の儀式・行事の意義と伝統を重んじた企画・運営 PTAと連携した各種委員会・関連行事の円滑な運営 同窓会と連携した同窓会活動の円滑な運営	学校行事による著しい成長を実感できる。	A A A	A	A	伝統を重んじつつも、新たな取り組みにも注力されている。大変素晴らしいと思う。
	業務の効率化を図るための環境整備	業務の効率化と分担の適正化による教員の負担軽減 学校要紀等の諸文書の適切な発行 各分掌との連携による教育環境の適切な管理及び整備	学校要紀に一部ミスがあったが、相互点検の見直しを行う必要がある。	B A A			
生徒部 生徒支援課	主体性を持って考える実践的行動力の育成	教員・生徒の共通理解を図り、生徒の倫理観や責任感を醸成する。 社会的モラル・マナー及び安全意識・危機管理能力を向上させる。 学年・分掌と連携し、生徒間の自浄作用が高まる環境づくりを図る。	生徒の自主・自立が尊重され、自浄作用が適切に機能している。	A A B	A	A	「自浄作用」という言葉から御校ならではの生徒の自主性を重視していると思う。自転車・歩行時のマナーアップについて地域と連携して取り組んでほしい。
	生徒が安心して過ごせる環境の整備	支援が必要な生徒の情報共有並びに早期対応 外部の関係専門機関との積極的な連携 いじめ・自殺予防における未然防止及び組織的・継続的対応	いじめはほとんど見受けられない。SNSのマナー・モラルも問題は少ないと思う。	A A A			
生徒部 活動支援課	修猷アイデンティティと実践的行動力の育成	自治的・主体的な生徒会活動を支援する教員体制の整備 生徒が主体となって学校全体を引っ張っていくスーパーリーダーの育成 修猷文化の継承と修猷アイデンティティの育成	他からの指示を待つのではなく、物事に自ら取り組み姿勢が身に付いた。	B A A	A	A	伝統の継承については生徒の感覚も重視すべきと思う。生徒が自主的・主体的に活動をしていて成長につながっていると思う。
	二大行事・部活動を通じてたくましく生きる力を育成	生徒のリーダーシップ・フォロワーシップの醸成 二大行事に向けた生徒の自治的・主体的活動への支援 心身共に健康で文武両道を実践する生徒の育成	二大行事は自分の成長につながっていると強く感じる。	A A A			
進路部 進路支援課	高い志を定め、主体的に努力する力の育成	「進路の手びき」の積極的な活用 外部講師の講演、卒業生キャリアセミナーの実施 校外外模試及び大学入試等の分析・評価	社会に出るに当たって、志や夢を重視していきたい。	A A A	A	A	外部講師や卒業生キャリアセミナーなど、卒業後の進路に向けて積極的に取り組みされていると感じた。これからも継続してほしい。
	より効果的な進路支援・進学支援の実践	適切な進路情報の提供 夏季・冬季補習及び3年生放課後課外の実施 進路希望に応じた面接指導・小論文指導	学年別の進路説明会は早期から多くの進路情報を得ることができる。	A A A			
進路部 広報課	社会に開かれた学校の観点をもった広報的行事の運営	小学生保護者説明会及び修猷フェスト(中学生体験入学)の実施 学区内小学校、中学校及び学習塾への訪問・意見交換 小中学校PTAの学校訪問、出前授業、学校説明会の積極的受入	小学生や中学生の子どもたちや保護者にとって修猷館を目指す大きなきっかけとなっている。	A A A	A	A	小学生保護者説明会は二部制から一部制に変更したが、多くの部活動の協力を得て実施することができた。
	本校生徒の創造性・主体性・協働性・リーダー性の育成	生徒会執行部と連携した広報活動を通じたリーダー性の育成 広報的行事に関わる生徒の創造性・主体性・協働性の育成 ホームページを活用した本校生徒の取組等の紹介の充実	修猷フェスト等で修猷生と触れ合うことは、本当の意味で修猷館を知ることに繋がる。	A A A			
教養部 研究支援課	教員研修及び教育実習の適切な運営と教育研究の充実	生徒の実態、本校の現状、教育改革の動向を踏まえた教員研修の実施 人権教育推進委員会と連携した教員の人権意識の向上を図る人権研修 本校教員の教育実践、教育研究の集大成となる研究紀要の発行	職員研修や人権教育がどのように行われているか知ることがなかなかできない。	A A A	A	A	多様化する人権教育は、リレー的な側面があり、生徒目線で指導をお願いしたい。
	「総合的な探究の時間」の運営支援	各学年・分掌と連携した3年間の総合的な取組の実施 出前授業・卒業生キャリアセミナー等の外部連携の充実 生徒の自己教育力・相互教育力・実践力の育成	課題研究や出前授業などに積極的に参加し、自己の成長の糧となった。	A A A			
教養部 図書課	朝読書を中核に据えた活字文化の推進	教職員と生徒が読書を楽しむ環境をつくる。 読書会やビブリオバトルによる校内外の生徒間の交流を支援する。 優れた文章活動の年間記録「オーロラ〜極光」の編集	読んでいるジャンルとしては文学や評論が55%と伸びてきている。	A A A	A	A	デジタルの時代であっても、人格形成には読書も重要であると思うので、図書課の取組は評価したい。
	生徒図書委員会の組織力の向上及び図書館等の適切な管理と運営	生徒図書委員会主催の行事の長期的取組を支援する。 晋我祭等による図書委員の企画力と実践力を育成する。 外部講師の招聘や講座への積極的な応募を促進する。	蔵書の数はさすがである。図書委員会を中心とする様々な企画は今後も継続してほしい。	A A A			

様式3

第1学年	力一杯やる	授業等の教育活動や学校行事を通して、気力を引き出す。 部活動、大運動会、十里踏破遠足を通じて体力を鍛える。 授業を中心に課題研究、読書、海外派遣研修等を通じて知力を伸ばす。	他からの指示を待つのではなく、物事に自ら取り組むことを心掛けた。	B A A	A	A	自らの意思で学び、行動することの価値が共有できている。授業、行事を通して、強い心身を育むことの意義を強調していきたい。	A	進路について、心強い後押しがあったり、指導として本当に素晴らしいと思う。	
	自他の力を使って伸ばす	しっかりと「考える、語る、歩く、作る」ことができる力を育成する。 授業や部活動、様々な学校行事を通して自他の魅力を発揮する。 力がいっぱいあること(可能性)に気づいて、自他を大切にしている。	学校行事や部活動など、自分の能力を発揮できる場が多く充実している。	A B B	B		自らの魅力に気づき、存分に発揮できている生徒はまだまだ少ない。生徒が自信を持って自分を表現できる機会を設けたい。			
第2学年	「たくましい」先人・文化・仲間 に学び、自分の世界を開拓する	学校行事において仲間と共に型を破り、新しいものを創造する。 修猷文化を主体的に体得し、自己の存在や役割、可能性を探る。 真の学びと豊かな知性を主体的に追求する。	学校行事、部活動などの場面でリーダーシップを発揮した生徒が41%に増加している。	A A B	A	A	行事や部活動における活躍・勢い・挑戦・自信・丁寧さを日常の生活や学習において自分自身や集団のために発揮できることを目指す。	A		
	真の「たくましさ」に必要なものを追求する	礼儀や節度をわきまえ、困難に立ち向かう「協働体」を構築する。 校内外での様々な交流を通して、自分に付加価値をつける。 失敗を恐れずチャレンジし、その経験を仲間と語り合い、共有する。	意見や立場の違いを理解し、状況に応じて対応する柔軟性と協働性を身に付けた。	B A A	A		生徒同士が議論しながら高め合い、新たな挑戦ができる環境を確保し、適切なバックアップを行う。			
第3学年	最上級生としての自覚と最大限の責任感	最上級生として最大限の責任を果たす。 他者との協働を通して、仲間を尊重し合う更なる人間的成長を図る。 修猷の伝統を継承するため、積極的に後輩に語り継ぐ。	他者と積極的に関わり、仲間を尊重しつつ、友好的な関係を築くことを心掛けた。	A B A	A	A	最上級生としての自覚を持ち、同級生と切磋琢磨しながら自らの力を発揮し、後輩たちに伝統をしっかりとつなげるリーダーシップを発揮できた。	A		
	高い志と進路実現に向けた最大限の挑戦・努力	失敗を恐れずに、果敢にチャレンジする態度を醸成する。 仲間と互いに刺激し合い、より高いレベルの学習に取り組む。 卒業生キャリアセミナーや講演会を通じて、計画的な進路実現を図る。	失敗を恐れず、新しいことや困難なことに挑戦する精神を身に付けた。	B A A	A		進路に関しては第一志望に対する思いを強く持つ生徒が多くなったが、放課後等の自分の時間をうまく使っている生徒が少なかった。			

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学びの実現に向けて、生徒の現状にあった内容を吟味し、ICTの活用と従来の指導方法とのベストミックスによる、より効果的な授業・学習を実践していく。</li> <li>・伝統を継承しつつ、生徒の声に耳を傾け、生徒の自主性・主体性に特化した教育活動を実践しつつ、「自浄作用」の最大限の伸長を図る。</li> <li>・多様なジャンルからの外部講師の招聘や卒業生キャリアセミナーなどを継続しつつ、生徒が更に高みを目指す取り組みとなるキャリア教育を実践していく。</li> <li>・デジタル時代の中でも、読書がもたらす人間形成力を活用し、人としての幅を広げる教育実践を継続する。</li> <li>・マナー・モラルの遵守に向けた指導と併せて自他の命を大切に生徒を育成する。</li> </ul>
--

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は A:適切である B:概ね適切である C:やや適切でない D:不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
特記事項なし	